

リーダーシップ研究のパラダイムと社会物質性アプローチの可能性

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 真一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/21801

2021年2月16日

「博士学位請求論文」審査報告書

審査委員（主査） 経営学部 専任教授

氏名 高橋 正泰 印

（副査） 経営学部 専任教授

氏名 中西 晶 印

（副査） 経営学部 専任教授

氏名 青木 克生 印

1 論文提出者 伊藤真一

2 論文題名

（邦文題）

リーダーシップ研究のパラダイムと社会物質性アプローチの可能性

（欧文題）

Paradigms of Leadership Studies and Possibility of Sociomaterial Approach

3 論文の構成

本論文は、リーダーシップにおける先進的な研究である。これまでのリーダーシップ研究は、機能主義と社会構成主義に立脚して研究が行われてきたが、近年、新たな研究アプローチに基づき、物質性に注目するリーダーシップ研究が散見されるようになっている。本論では、物質性に注目するリーダーシップ研究の特徴を明確化し、物質性に注目する研究をさらに発展させるために必要な研究アプローチについて検討している。このために、本論はリーダーシップ研究を、機能主義、社会構成主義、および物質性の3つの観点から捉え直し、それぞれのリーダーシップ研究の特徴を検討している。従来の理論とは一線を画すポストモダンや社会構成主義といったリーダーシップの研究が21世紀に入って盛んに行われるようになったが、本論文の研究はこれらの議論をさらに一歩進めた研究動向の一環としてみることができる。また、物質性に注目するリーダーシップ研究をさらに発展させるための方法論として、社会物質性アプローチの可能性を検討しつつ、今後の研究課題を明確化することを目的としている。

本論文は、このような研究背景から、経営学・経営組織研究におけるリーダーシップ概

念を体系的に議論し、そのうえで、経営学・経営組織研究においてリーダーシップ研究がいかに議論されてきたかを概観・分析し、今後の経営学・経営組織研究におけるリーダーシップ研究の社会物質性アプローチの可能性を検討した論文である。

本論文の構成は次の通りである。

序

第1章 機能主義的リーダーシップ研究

第1節 機能主義

第2節 特性アプローチ

第3節 行動アプローチ

第4節 コンティンジェンシー・アプローチ

第5節 カリスマ的・変革型リーダーシップ

第6節 リーダー・メンバー交換理論

第7節 フォロワーシップ

第8節 機能主義的リーダーシップ研究の貢献と限界

第2章 社会構成主義的リーダーシップ研究

第1節 リーダーシップ研究におけるパラダイムシフト

第2節 社会構成主義の定義と視点

第3節 組織ディスコース分析

第4節 社会構成主義的リーダーシップ研究

第5節 社会構成主義的リーダーシップ研究の貢献と限界

第3章 物質性とリーダーシップ

第1節 経営組織論における物質性

第2節 組織研究における物質性の扱い

第3節 物質性研究の礎石: アクター・ネットワーク理論

第4節 物質性の概念

第5節 社会物質性

第6節 物質性とリーダーシップ

第4章 事例 135

第1節 研究方法

第2節 分析方法

第3節 事例

第5章 考察: 社会物質性とリーダーシップ

第1節 モノによるディスコースの回顧的な意味づけと新たなディスコースの形成

第2節 ディスコースの変化による物質性の変化 149

第3節 ディスコース, 物質性の重なり合いとリーダーシップ 150

第4節 社会物質性アプローチからみるリーダーシップ研究の研究課題 151

終章 結論

4 論文の概要

本論文は序章から終章によって構成に従い議論を展開している。

序では、本論文研究についての問題意識や本経営学において主要なテーマであるリーダーシップ研究を、機能主義、社会構成主義に加え、物質性の観点から捉え直し、物質性に注目するリーダーシップ研究をさらに発展させるための研究アプローチとして社会物質性アプローチの可能性についても検討しつつ、社会物質性アプローチに立脚するリーダーシップ研究の具体的な研究課題を提示することを研究目的とすることが述べられている。

第1章では、機能主義に立脚するリーダーシップ研究を概観した。はじめに特性アプローチ、行動アプローチ、コンティンジェンシー・アプローチといった古典的な議論を振り返っている。そして、これらの研究がリーダー個人に注目し、フォロワーの認識やリーダーとの相互作用とリーダーシップとの関係は検討されてこなかったことを確認している。次に、1980年代以降のリーダーシップ研究をレビューした。1980年代以降の研究では、リーダーシップの受け手であるフォロワーの認識やリーダーとフォロワーの関係性、フォロワーの役割などとリーダーシップの関係についての研究をレビューしている。この章ではリーダーシップやリーダーのカリスマに対するフォロワーの認識を検討するカリスマ的・変革型リーダーシップ研究、リーダーとフォロワーの関係性に注目するリーダー・メンバー交換理論、フォロワーの役割に注目するフォロワーシップ理論を確認している。この章の最後では、機能主義に立脚するリーダーシップ研究の問題として、リーダーやフォロワーなどリーダーシップに関連するアクターの相互作用におけるダイナミックな側面が検討できない点、フォロワーをはじめとしたアクターの意味解釈や意味形成を見逃している点、リーダーやフォロワーの相互作用が展開される背後にある構造やコンテクストについて議論を展開できていない点を挙げ、機能主義的リーダーシップ研究に対する批判的な検討を行っている。

第2章では社会構成主義に立脚するリーダーシップ研究についてレビューしている。Meindl et al. (1985) が社会構成主義をリーダーシップに持ち込んで以降、リーダーシップを特定のコンテクストの中でリーダーとフォロワーの相互作用によって構成される現象として捉える研究が増加している。そこでこの章では、社会構成主義の基本的な考え方や、中心的な研究方法であるディスコース分析を確認した。そして、本論文はその上で社会構成主義に立脚するリーダーシップ研究をレビューし、そして従来の社会構成主義的リーダーシップ研究の貢献と限界について論じたものである。

第3章では、物質性に注目するリーダーシップ研究について検討を行った。ここでは、はじめに経営組織論において物質性の問題が見逃されてきた理由やこれまでの組織研究において物質性がどのように扱われてきたのかを確認している。こうした前提を確認したのち、近年の物質性の議論を整理した。具体的には物質性とはどのような概念なのか、物質性のエージェンシーをどのように捉えるのか、そしてより最近注目されている社会物質性アプローチは組織現象をどのように捉えるのかなどを確認している。そして、物質性に注目する既存のリーダーシップ研究をレビューし、これまでにどのようなことが明らかになってきたのか、物質性に注目するリーダーシップ研究はリーダーシップをどのように捉える研究なのかを議論している。その上で、既存の研究は、モノそれ自体がリーダーシップにどのような影響を与えているかを検討しているに留まっており、社会的なものを含めた多様な存在の中でどのようにそのエージェンシーがもたらされるのかについては議論されていないことを指摘した。そこで、物質性に注目するリーダーシップ研究をさらに発展させるために、社会物質性アプローチに立脚したリーダーシップ研究が提案されている。

第4章では、社会物質性アプローチに立脚するとどのようにリーダーシップを捉えることが可能になるのかを例示しつつ、今後の研究の課題を探るため、ケース分析をした。本論では、特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会（以下、シャプラニール）が行っているフェアトレードプロジェクト「She with Shapla Neer」を取り上げている。これは、過酷な生活を余儀なくされている途上国の女性を支援することを目的としたものである。このプロジェクトに参加しているのは、全体のコーディネーターなどを担当したシャプラニール、被支援者であり石けんの生産者であるバングラディッシュやネパールの女性たち、技術支援に携わった太陽油脂株式会社である。このケースは、ディスコースと物質性が結びついていくことにより製品である石けんの品質向上に向けたリーダーシップが発現した事例である。このケースを上記3つの視点から捉えたリーダーシップの例として例示したものである。

第5章では、第4章で例示したケースを、社会物質性アプローチに関連づけて議論した。ここでは、ケース分析をもとに、具体的な研究課題として、1. モノによってディスコースが回顧的に意味付けられたり、新たなディスコースの形成が促されたりする側面を捉える、2. 意味付けられ変化したディスコースによってモノも変化したり、新たな結びつきを見せたりする側面を検討する、3. リーダーシップをディスコースや物質性が順次結びついていくプロセスとして捉えるといった3つを提案している。

終章では、機能主義や既存の社会構成主義的リーダーシップ研究においては、十分にこうされてこなかった物質性に着目し、人間を取りまくあらゆるアクターとの相互作用を観察、考察しながらリーダーシップが社会的に構成されるプロセスを明らかにしていく研究であると主張される。これらの研究は身体、空間、文章などの人間以外のあらゆる物質的アクターにも注意を向け、これらがどのようにリーダーシップに影響を与え、リーダーシップを構成しているのかを明らかにする研究である。

このように、物質性に注目するリーダーシップ研究は、物的な存在がリーダーシップにどのように影響するかを明らかにしてきた。そして本論文では、これらの研究を発展させていく上で、社会物質性アプローチの可能性を検討した。この社会物質性アプローチはまだ議論の途上であり、その内容についてはまだ合意は得られていない。社会的な側面と物質的な側面の相互関連という視点から組織現象を明らかにしようとする点においては、いずれの論者も同意するが、リーダーシップは、物質的なものを結びつけつつ、フォロワーや組織に対して影響を行使し、リーダーシップを構成していくプロセスを解き明かしていくことが可能になると結論づけている。

5 論文の特質

本論文では、これまで組織の理論では十分に検討されてこなかったリーダーシップ研究を、機能主義、社会構成主義と新たな視点としての物質性の3観点から捉え直し、物質性に注目する際のアプローチとして社会物質性アプローチの可能性を検討した意欲的な論文である。本研究の貢献としては、1. リーダーシップ研究を機能主義、社会構成主義に加え物質性の観点のアプローチから捉え直すことによってこれまでのリーダーシップ研究を新たな視点から整理したこと、2. 既存の研究では、物質性に注目するリーダーシップを体系的にまとめたものはほとんど見られなかった物質性に注目するリーダーシップ研究をレビューしその貢献と今後の課題を明確にしたこと、3. 物質性に注目するリーダーシップ研究

の具体的なアプローチとして社会物質性アプローチの可能性を検討したことである。また、ケース分析を通して、社会物質性アプローチに立脚するリーダーシップ研究の具体的な研究課題を明確にしたことが本論の主要な貢献であり、十分に評価することができる。組織の研究において人間が根源的に持つ特質としての言語のみならず物質性という概念を取り入れた研究である「物質性」の概念は、近年組織研究において注目されている研究の一つであり、組織の中で今後ますますその研究の重要性が認識されるべき分野である。本研究は、このような「リーダーシップ」についての見方の変化を組織研究のパラダイムの多様化と変遷に関連付けて整理を行いつつ、従来の機能主義と社会構成主義に基づく議論の限界を解釈的主義との関連で捉え直した先駆的な研究であり、そこに本論文の特質をみることができる。

6 論文の評価

本論文は、これまで研究の主流である機能主義的組織論のパースペクティブから離れ、さらに社会構成主義から新たなパースペクティブによりリーダーシップの概念の物質性の概念を理論的に検討するという組織におけるリーダーシップ研究の新たな研究分野を切り開く研究であると評価することができる。しかしながら、研究メソドロジーについては、**荒削りのところが**みられ、今後はメソドロジーの確立が望まれるところである。

しかしながら、そのような課題はあるとしても、これまで十分に検証されてこなかった解釈的なアプローチを取り入れた「リーダーシップ」を「物質性」の視点から、研究パラダイムを考察しつつ理論的考察をした本論文の研究価値が失われることはなく、組織のリーダーシップ研究における「物質性」の重要性とその研究の先駆けとなる研究として、高く評価されるべき論文であるとすることができる。

7 論文の判定

本学位請求論文は、経営学研究科において必要な研究指導を受けたうえ提出されたものであり、本学学位規程の手続きに従い、審査委員全員による所定の審査及び最終試験に合格したので、博士（経営学）の学位を授与するに値するものと判定する。

以上